

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400032		
法人名	有限会社 アーバン・エステート		
事業所名	グループホームごえくの里		
所在地	沖縄県沖縄市越来3-11-20		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku_ip/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790400032-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成24年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の一角にあり、ベランダからは、山や畑が見え、朝は小鳥のさえずりを聴きながら自然と触れ合い生活している。室内も穏やかな優しい時間が流れ、家族の様にそれぞれの個性を持ちながらお互いが協力し認め合いながら日々生活している。又其々ができる事や穏やかに過ごせること等、職員が「自分ならこうして欲しい」「こうなりたくない」を念頭にいれながら入居者と話し合い日々の活動に取り入れている。体調不良時等急な対応にも応じ健康面など安心して生活ができるように支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地に位置した2階建ての2階にあり、1階は同法人の小規模多機能施設となっている。今年、職員間で再三の研修を重ね意思統一ができ、医療機関の協力のもと2名の看取りを実施し、職員はケアの向上を実感している。運営推進会議が年6回昼食を囲み定期的に開催しており、行政職員を含め委員に地域警察員を委嘱し連携を深め、日頃の利用者の安全確保に努めている。また、職員の資質向上の一貫として資格取得を積極的に支援し、開設後6名の職員が介護福祉士の資格取得し実績を出している。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年12月18日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で入居者の「希望に沿ったケアは何か：個々にあったケアは何か」を、日々の生活の中で職員が理念に基づいた取り組みを行なっている。	利用者のこれまでの生活を大切にしながら地域を巻き込んだ支援を掲げた、地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念や基本方針である。利用者に自宅と思って過ごしてもらえるよう支援している。年度初めに理念について勉強会を行い職員間で再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や老人会・デイサービスとの交流や、近所へ散歩しながら住人と立ち話をしたり、お茶をいただいたり、行事に近所の方を招待したりしている。	6か所の自治会が中心となり、ごえく祭りが2か年に1回行われ、事業所も地域の自治会に加入し祭りに参加している。利用者は各々地域の敬老会へ参加したり、地域のエイサーが玄関口で披露したり、また、保育園の子どもたちが散歩がてらの来所や、事業所の行事に地域住民がボランティアで参加する等、日頃から交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や、見学にいらした方に事業所の特性や認知症への理解等分かりやすく説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催、事業所の行事の状況報告を行うと共に、参加者からの意見を参考にしながら、サービスの質の向上に務めている。	運営推進会議は、2か月に1回1階の小規模多機能と合同で定期的に開催されている。市職員や利用者、家族、自治会長も参加し、また、今年から交番署員や議員も加わり、昼食を摂りながら事業所から、利用者状況や事故・ヒヤリハット及び外部評価結果が報告され、委員からアドバイス等をもらいサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に保険者も参加してもらい、事業所の報告や、相談等すると共に、困難なケースなどは、電話などで保険者に相談し助言を頂き、常に協力関係を築くようにしている。	事業所は、介護保険の申請をしたり、毎月福祉に関する医療券発行のため市に出向いている。また、ターミナルで入院した利用者家族から、「事業所を再度利用したい」との相談を受け、役所や在宅介護支援センターに相談し対応した事例もあり、日頃から行政と連携しながら運営を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や新任研修等を行い常に職員が身体拘束に対する理解と認識を得ており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束について毎年1回勉強会を行い再確認の機会とし、新人職員についても研修を行い、拘束をしないケアを意識している。事業所は2階にあり階段入口にはドアがあるが、階段やエレベーターも自由に出入りができる。いざり歩行でも自由に事業所内を歩行してもらうため、日々のケアでのリスクについても家族に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の勉強会や新任研修を行い常に職員が虐待に対する知識を持ち、お互いが言葉使いや態度等、注意し入居者が安心して暮らせるように取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会で職員の共有を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込み時の際に概要や料金の説明を行い納得した上で契約を交わすが、再度入居時や法改訂のための料金変更がある場合は、本人家族へ十分に説明を行い納得、理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時又は自宅訪問して、入居者の生活の状況を報告しながら、家族の意見や要望を聞くように心がけている。	利用者の意見等は、普段の会話の中で受け止め支援している。家族からは「疾病があるため体重を減らしてほしい」との要望があり、職員間で確認し対応している。家族の意見を聴く機会として、毎月自宅訪問し請求書を届けたり、家族アンケートや利用者名で年賀状を出している。また、意見箱の活用は少ないが「ありがとう」の文が1通入っていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中やミーティングの中で、自由に意見交換ができ、業務や運営に反映している	毎月1、2回、利用者が休憩中にミーティングを行い、意見や提案の場としている。職員の意見で、外によく出かける利用者への対応として、職員を2から3名体制とし、内1人は、その利用者と一緒に掛け合うようにしている。また、年2回の自己評価の際に意見を表す機会があり、調査当日聴き取りした職員から働きやすいとの言葉があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や自己評価表を用いて、職員の思いなど把握し、お互いが協力しながら、気持ちよく働ける職場に務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が積極的に知識が高められるように担当性にしたり、外部の研修に参加できるように勤務調整したりしている。又お互いのケアの方法を意見交換して質を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所以外の方とも行き来しながら情報交換をおこない質の向上の務めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や見学相談時等、本人の不安なことや困っていること聞き、自宅又は病院を訪問し、環境や身体状況の把握を行い、信頼関係を築き安心して生活ができるように務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学相談時等、家族の困っていることや要望を聞き、本人が生活している環境や身体状況の把握を行った上で本人に必要な物は何かを一緒に考え、一緒にケアしていくという意識の中で信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族との話し合いの中で、本人に必要なサービスは何かを一緒に考え、他のサービスの情報も提供した上で、本人家族が決定した事を基に支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることや興味・趣味等を把握して、身体的又は精神的にできるだけ低下しないように、楽しみながら職員と一緒に行うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等本人の生活状況を説明しながら、一緒にケアしているのだという意識作りを務めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行っていた買い物場所や畑・知人の家など一緒に訪問したり、いつでも誰でも面会に来れるような環境作りに努めている	利用者の殆どが中部以外出身者であるが、中部地域で長年過ごされ、家族や知人等の生活基盤のある中で、週1、2回買い物に出かける等、地域社会との関係性を継続支援している。また、関係性の把握は、面会に来所した職場の仲間や地域の知人等から聴けるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりがうまくいくようにテーブルの配置など考慮しながら、孤立しないような取り組みを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も退去先を訪問したり、家族に電話をいれ状況を把握したり、相談に乗ったり、いつでも来所できるよう声かけしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、本人の思いや希望を聞いたり、うまく伝えられない方は、仕草や表情などから把握するように努めている	調査時は、利用者全員会話が可能であり、日頃から利用者の声を聴き取るケアに努めている。「マクドナルドに行きたい」との希望に、全員で外出に出かけたり、「家族が心配」との声に本人に自宅に電話をしてもらう等の対応をしている。また、日頃から利用者のしぐさや表情、物等を見せることで思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族から事前の情報や、日々の会話の中から把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や事前の情報収集や、毎日の行動の中から把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時の担当会議、体調の変化や必要に応じての会議で、本人や家族の思いを踏まえて本人・家族・職員の納得した介護計画を作成している	担当者会議は受診等で家族が来所する際に、本人や職員も参加し開催している。「外出したい」との利用者の思いや「自力で歩行してほしい」との家族の希望を踏まえ、トイレまで手引き歩行の実施内容の介護計画も作成している。見直しは介護保険更新時及び利用者の状態に応じて随時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日本人の状況を個別に記録し、普段と違う変化がある時には詳細を支援経過に記録し、職員が共有できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族の介護力にあわせて病院受診や買い物等、又緊急時の対応など臨機応変に対応できるように務めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の今までの生活を参考にしながら、楽しみが持てるように季節に合わせた行事等に参加できるように務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前の病院を利用しており、身体状況に応じて情報提供書や実際に訪問したりして主治医との連携をとり、病状が悪化しないように務めている	利用以前からの馴染みの医師がかかりつけ医となっており、受診は家族支援が基本で、症状により情報提供書を持参させている。利用者の半数が独居で家族の支援が得にくく、職員が同行支援し、結果を離れた家族へ電話等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり職員は入浴時や気づいた時には、申し送りノートや業務日誌に記録して、いつでも情報が共有できるようにしており、不在時は電話連絡して、指示をうけるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時は看護師が受診付き添ったり、情報提供書を作成したり、病院面会に行つて情報収集に務めたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対して認めたくないとの家族も多々いる。本人及び家族の心の受け入れに応じて最期の確認をしており、必要時は文章を交わしている。見取りの時は本人及び家族・主治医を混えて話し合い、納得が行くようにしている	「重度化した場合の事前確認書」「看取り看護についての同意書」等整備され、事業所の方針が確立している。看取り実施に当たり職員の不安解消のため、アンケートの実施や会議等で意思の統一を図り、今年2名の看取りを実施した。家族には状況判断のうえで、段階的に話し合い合意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で研修会を開き、急な場合でも対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交えた火災訓練を実地しており、消火器の訓練も行なっているが、今後は夜間を想定した訓練を予定中。停電の時はオール電化のため卓上ガスコンロ等の準備もされている。	今年は夜間想定した自主訓練と消防署の指導のもと初期消火、避難訓練を自治会長や警察の協力を得て2回実施されている。自動火災通報装置機等の非常用設備が完備されている。災害対応マニュアルは火災時のみで、今後は各種災害に対応したマニュアルの見直しの検討が予定されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長時間一緒にいる為、馴れ合いになってしまいがちだが、相手の人格を尊重し、プライバシーに配慮しながら、言葉使い等気をつけながら、ケアにあたっている。	年1回プライバシーについての研修が行われ職員は、日頃のケアの再認識を行っている。馴れ合いになりがちな言動にも職員相互で、確認し合う体制が培われている。トイレは、引き戸と短のれん、内カーテンで3重になっているが、いずれも日中は開放され、廊下からトイレの中が見える状況にある。	利用者の尊厳、プライバシーの確保について、特に排せつについては、直接的な介助と共に設備面での配慮等が必要で、プライバシー保護に留意したケアが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や仕草などから何を求めているのか察知して、何気なく声かけをして、自己決定ができるように工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の身体状況や精神状況を把握して決まった日課ではなく、本人に合わせて臨機応変に対応するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のお気に入りや必要と感ずる衣服等、買い物に行ったり、顔のマッサージを行ったり、美容に関して楽しみがもてるように務めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜と一緒に購入してきて、メニューを考え調理したり、楽しみがもてるようにしている。又配膳下膳が可能な人は自分で行なっている	昼食は法人内別事業所から配食されている。朝、夕食は事業所で調理され、利用者と食材の買い出しに出かけ、利用者の好みの物を取り入れるよう配慮している。また、食器は全て陶器で、利用者はマイカップを使用している。食事中はテレビを消して会話をしながら、職員も一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄及び水分確認表を作成記録行うことで、個々のバランスが分かり、1日をトータルとして計算、又本人に合わせた食事形態にしており、できるだけ自分で摂取できるように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアを行いながら、訪問歯科も利用し専門的なアドバイスを受け、口から食事が取れるように工夫している		
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を作成、毎朝申し送りの際に排泄の確認して、（排尿・便）がうまくできるように、定期的にトイレに行くようにしている	日中は全員トイレでの排せつを心掛けているが、夜間はポータブルトイレの利用者もいる。排せつリズムを把握し、オムツからパット使用になり、失禁が改善された利用者もいる。同性介助を希望する利用者には、同性で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄の確認を行い、水分量を増やしたり食事を取り入れたり、必要に応じて主治医の助言の元内服を服用したりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別で入浴をゆっくりと行い、日中だけでなく、寝る前等本人のペースにあわせている	1日おきの入浴が基本であるが、時間や回数は希望に添うようにしている。冬場は足浴も併用している。入浴の声かけを嫌う利用者には、時間をずらしたり、薬を塗る前に入浴した方がよい等と誘導している。同性介助を希望する利用者には、同性で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具類、採光等本人にあわせて調整を行い安眠できるような工夫を行なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更が或場合は、申し送りにノートに記入しており、職員の共有に努めている。また、又文献はカルテに添付、必要に応じて本人へも納得が行くまで説明する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気のいい日のドライブや行事の活動等、楽しみが持てるように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩を行ったり、歩行が不安定な方はベランダに出て外の空気や朝日を浴びたり、又家族と一緒に美容室に行ったりしている	馴染みの美容室や畑仕事のできる利用者を定時に畑に連れて行く等、介護計画に基づき支援している。また、小グループで桜祭りやハーリー等、季節の行事に出かけることで、気分転換や季節感に触れる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は嗜好品を購入のための小遣いを所持し、必要に応じて買い物等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいとの希望時は応じ、正月には家族に年賀状を出したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは光が入り明るい、夏は夕方西日が入り、眩しいため、カーテンをしめクーラーの調整を行い、快適に過ごせるようにしている	事業所は2階のため、居間や廊下等の共用場所は採光、風通し、眺め等もよく、4、5人掛けのコーナーソファは、テレビを見たり、うたた寝をしたりとくつろぎの場となっている。ベランダは板間になっており屋外活動に活用され、また、トイレ2か所はウォシュレット便器が設置され、快適な雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが設置してあり、ゆったりとした時間がもてるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使用していたベッドや鏡等を設置したり、ゴザを敷いたり本人が過ごしやすい居室になっている	各居室には整理タンスとベッド、防火カーテンが設置され、利用者はテレビや鏡台等の私物を持ち込み、一人ひとりの好みで配置され、居心地よさを確保している。利用者の体調に合わせて2部屋が畳敷きとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室がわからない人には目印を付け認識ができるように工夫している		